

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170202873		
法人名	水森商事		
事業所名	グループホーム せせらぎの里		
所在地	札幌市東区東苗穂7条3丁目1-5		
自己評価作成日	令和5年 10月 12日	評価結果市町村受理日	令和5年 11月 13日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170202873-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0170202873-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和5年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍の為に出来ない事が沢山ありますが、施設内が明るく、会話と笑顔が見られるホームです。今年が出来ませんでしたが、来年はまた園児の遊ぶ姿を見たり、外へ散歩に出かけたり、お花を見に行ったりホームの中で過ごすだけではなく、楽しく過ごしていただく事を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市郊外の幹線道路沿いにある1ユニットのグループホームである。近くに小学校、ドラッグストア、コンビニエンスストアなどがあり、バス停も近く、利便性に優れている。大きなテナントビルを改築した3階建ての建物で、1階が保育園、3階が当事業所、2階が関連法人のグループホームとなっている。共用空間は清潔で、大きな窓が幹線道路に面し、小学生の通学の様子や商店街の賑わいを眺めることができる。感染症の流行により地域交流が難しくなっているが、向かいの小学校内にあるミニ児童会館の児童が窓越しに横断幕を披露してくれたり、敬老会やクリスマスに児童がプレゼントを持参するなど、間接的な交流ができています。運営推進会議は家族の参加が得られていないものの、身体拘束や看取り、サービス評価など、毎回テーマを設定して話し合い、家族にも議事録を送付している。家族への情報提供の面では、毎月、写真を載せた利用者ごとの「せせらぎ通信」を作成し送付している。職員意見の反映の面では、以前行っていなかった管理者と職員の面談を定期的に行い、意見や提案を聞く機会を増やしている。医療や看取り支援は、協力医による往診や看護師による健康管理の体制を整え、利用者の状態や希望に沿って看取りの支援も行っている。清潔で快適な環境のもと、利用者が安心して過ごせるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに ○コロナ 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている ○コロナ 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○コロナ 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット玄関とスタッフルーム掲示して目に入る状態にしている。	法人理念の中に「地域福祉の発展」や「地域に信頼され、愛され、支え合える」という文言があり、地域密着型サービスの意義を踏まえている。理念を玄関やスタッフルームに掲示し、申し送り時等に内容を確認している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の為来訪にての交流は行えないが、敬老の日には贈り物をいただいたりと関係性は継続している。	向かいの小学校内にあるミニ児童会館の児童が窓越しに横断幕を披露してくれたり、敬老会やクリスマスにプレゼントを持参するなど、間接的な交流ができています。感染症流行前は町内会行事にも参加しており、収束後の再開を目指している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍の為行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍の為4月からの開催となっている。行えていない時も開催自体しており、議事録を厚生委員に送付している。	運営推進会議を2か月ごとに開催し、地域包括支援センター職員、町内会長、民生委員などの参加を得ているが、家族の参加は得られていない。身体拘束や看取りなど、毎月テーマを設定して話し合い、議事録を全家族に送付している。	家族の参加を働きかけるとともに、参加が難しい場合は会議の案内時などに、運営や会議テーマに関する意見を家族に聞き、会議で取り上げることを期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	推進会議には厚生委員、地域包括センターの方の出席もありホーム運営について把握しています。相談や助言をいただき協力関係を築いております。	運営推進会議に地域包括センター職員の参加を得て情報提供を受けている。介護報酬の加算について、市に問い合わせを行ったことがある。最近では防護服やアルコールなど感染症に係る備品の購入で市の助成を受けている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠は夜間のみ防犯の為にしている。身体拘束についてはマニュアルを作成し拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルを用意し、年2回の勉強会の中で禁止事項を確認することとしている。年4回の委員会も行っており、今後は委員会議事録に参加していない職員の確認印を明示する予定である。ユニットからエレベーターホールに利用者が出る際はセンサー音で分かるようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束、虐待については同一とし勉強会や運営委員会など議題にあげ、取り組んでいる。また、日々身体的変化や言葉遣いなど職員同士、全員で注意しあっている。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	評価の意義や目的は理解できているが具体的に活用できていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	分かりやすい言葉で具体例を挙げながら説明を行っている。また、不安や疑問を伺い丁寧に説明を行い納得した上で手続きを行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍の為家族会のかいさいは行っていないが、ケアの中で利用者様の要望をくみ取り、面会時には意見や要望など話せる雰囲気作りを心掛けている。	家族の来訪時に意見や要望を聞き、その内容を「連絡ファイル」や「介護支援経過」に記載し、共有している。年1回、家族アンケートを実施している。毎月、写真を載せた利用者ごとの「せせらぎ通信」を作成し家族に送付している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で聞く機会を設けている。また、カンファレンスには総務課長が参加し話しやすい関係性が構築されている。	最近では定期的な会議を行っていないが、申し送りや利用者の介護計画見直しの際、活発に意見交換している。管理者と職員の定期的な面談もやっている。職員は室内装飾や行事企画、通信の作成などを分担し、運営に参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日頃から総務課長には報告を行っている。その為職場の状況を把握した上で職場環境の整備に反映されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に外部講師を招き勉強会を実施し資格取得にも積極的である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の為行っていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約前には必ず面談を行っている。入居前にはできる限り情報収集を行い、入居後はご本人の様子、会話などから細かい記録を付けて介護者は共有しながら安心して暮らして頂けるよう取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設の見学時から現在入居様の生活状況の説明を行いながら家族様の不安や要望を丁寧に説明を行い話しやすい雰囲気を中心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人家族の思いや希望にできる限り添えるよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活する中で、本人の出来る事や出来ない事、好きなことを見つけ、出来ないところは一緒に行い楽しんで頂ける環境作りを心掛けている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月せせらぎ通信によりホーム内での様子や近況報告を行っている。また、面会時には今後の対応の相談や家族様からのご意見など頂きながら絆を大切に支えていくよう取り組んでいる。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現在はコロナ禍の為に行えていないが、行える体制は整えている。	感染症の流行や利用者の高齢化により友人や知人の来訪や手紙のやりとりは無くなっている。一方、家族の支援のもと馴染みの美容室や墓参りに出かける利用者はいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様の性格や相性を考慮し、席順を決めたり落ち着いて過ごすことが出来るよう考慮している。また、孤立しないよう、時にはスタッフが中に入り入居者同士のコミュニケーションが取れるよう取り組んでいる。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	外部評価	
			実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了後の対応は可能だが今迄その様な事例はない。また、施設内に居宅支援事業所がある事も説明している。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中の会話や行動、家族様からの情報などからお気持ちの把握を行っている。困難な場合は カンファレンスでの話し合いを行っている。。	自分の言葉で思いや意向を表出できる利用者は少なく、主に表情や反応から把握している。フェイスシートとアセスメントシートを整備しているが、趣味や嗜好の情報の追記や更新は十分といえない。	アセスメントシートの後半部分の枠を活用して、趣味や嗜好に関する情報を定期的に追加・更新することを期待したい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時の面談や情報にて把握している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	細かなことを記録に残し職員で話し合い、職員間で情報共有を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が毎月モニタリングを作成し、3か月ごとの目標評価をしケアプラン原案作成している。原案はカンファレンスで話し合い作成している。	介護計画を3か月ごとに見直ししている。モニタリング表、短期目標評価表を作成しているが、更新時の会議録は作成していない。具体的な家族の意向を計画に盛り込む方針である。日々の記録では計画目標に沿った記録が十分に行えていない。	更新時に「サービス担当者会議の記録」を作成することを期待したい。日々の記録は、介護計画の目標を意識した記録の作成を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活記録に記入したものをモニタリングで評価している。それを踏まえてケアプランを作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとして行える事は提供できる体制を整えている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の為行えていない。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	以前からかかりつけ医がいる場合は継続可能である。当ホームの主治医は2週間に1回往診しており、看護師は毎週来ている。また、歯科医、柔道整復師の往診もある。	利用者は全員、協力医による月2回の往診を受けている。内科以外に通院する場合は家族が通院を支援している。受診内容を受診・往診記録および、利用者ごとの「支援経過記録」に記載し、共有している。	

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪看時に情報提供を行い、相談しアドバイスや指示を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時に必要な情報をお渡しし、その後の経過や情報を電話などで共有している。早期退院の為協力している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	対応指針を契約時に説明している。重度化した場合はホームから主治医、ホームからご家族様、その上でホーム、主治医、ご家族様3者にて話し合いをおこなっている	利用開始時に「同意書(重度化した場合の対応指針)」を説明して署名捺印を得ている。過去に複数の看取りを経験し、今後もできる範囲での看取り支援を行う方針としている。看取りにあたって医師や看護師と十分に話し合っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時、事故発生時のマニュアルを作成し説明している。講習はコロナ禍の為行えていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災、水害、地震、を想定した避難訓練を年3回行っている。その内1回は、1階の保育園を含めた建物全体での合同訓練を行っている。災害時の準備品も準備している。	年3回、火災、地震、水害の避難訓練を実施しており、地域住民には災害時の協力を依頼している。職員の救急救命訓練の受講を計画的に行う予定で、災害時におけるケア場面別の対応についても定期的に話し合いを行う方針である。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人に応じた声掛けや言葉使いに注意するように心掛けている。不快にならないよう注意している。	接遇研修を実施し、不適切な声かけなどがあればその都度指導している。申し送りは小声や頭文字を使い、記録類は事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日頃の会話や行動から、思いや希望をくみ取るよう努めている。また、介助を行う際も本人の意思確認を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせたケアを心掛けている。例えば起床や食事なども、声掛けはするが、1人1人のペースを優先している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本本人に選択して頂くが難しい場合は、職員が好みと思われるものを提供している。また、毎月理美容もある。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	1人1人ご自身の食器を使用し、かたづけを手伝って下さる。行事の際は別メニューで楽しんで頂いている。	食材会社の献立を基本に、年間行事に合わせた食事を楽しんでいる。出前で寿司と蕎麦のセットを取り寄せたり、誕生日はケーキでお祝っている。利用者と同じ食事を摂っている職員も多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	飲水量に関しては主治医や看護師と相談しながら提供している。食事に関してはご本人の意見を尊重しつつ体調に合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けを行い見守り若しくは介助で行っている。問題がある時は往診の歯科医師に相談している。必要な時は治療をして頂いている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	1人1人の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。介助の必要な方は2時間を目安に、又は意思確認のできる場合は本人の確認を行っている。	自立している利用者もいるが、全員の排泄を記録している。個々の排泄間隔に応じて声かけをし、昼夜ともにトイレでの排泄を支援している。時間帯や利用者に応じて適切な排泄用品を使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	1人の1人の排泄状況を記録し把握している。これを主治医に報告相談し排泄対応表を作成している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	3日に1回のペースで入浴介を行える体制を整えている。体調や本人の気分を考慮し中止する場合もある。	毎日、午前から午後の時間帯で各利用者が3日に1回入浴できるように支援している。入浴を拒む場合も声かけを工夫し、定期的な入浴につなげている。入浴剤を使用したり好みの湯加減に配慮し、職員と会話を楽しみながら入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼食後に昼寝の時間を設けている。それ以外の時間でも傾眠見られたら声かけをし意思確認を行ったり、休みたい方は休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報はすぐに見られるようにスタッフルームに置いてある。薬の変更も周知している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日洗濯物たたみやフキン干し等行っている、難しい場合はスタッフが一緒に行っている。また、本の提供やぬり絵、行事として敬老会、クリスマス会、お誕生会なども行っている。		

グループホーム せせらぎの里

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在はコロナ禍の為行えていない。	以前は近隣の散歩や外出行事を行っていたが、感染症の流行により現在はほとんど外出する機会が無くなっている。今後は感染症の収束状況を見ながら、散歩や季節に応じた外出を取り入れていきたいと考えている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は事務所でやっている。希望品は職員が代行で行っている。コロナ禍の為一緒に買い物に行くことはない。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	出来る体制は整えているが電話や手紙の希望はない。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	月ごとに装飾担当を決め季節を感じられる飾り付けを行っている。	事務所や浴室、トイレなどを中心にした回廊式で、居間と食堂は大きな窓に面した明るく開放感のある造りになっている。壁には、子供たちからのプレゼント作品や季節感のある利用者制作のかぼちゃの塗り絵が掲示されている。浴室やトイレも広く使いやすいとなっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間が狭い為1人1人の居場所を作るのは困難だが食卓テーブルで、テレビを見たり、利用者様同士で会話を楽しんだりされている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時にご家族様へ馴染みの物を持参することを勧めている。居心地よく過ごして頂けるよう努めている。	居室には、クローゼットと洗面台が備え付けられている。使い慣れた椅子や収納ケース、好きな小物類を持ち込んで落ち着いて過ごせるように工夫している。時計やカレンダー、人形なども飾られておりその人らしい室内になっている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	1人でもトイレに行けるように「トイレ」と扉に明記し自立した生活が送れるよう工夫している。			



## 目標達成計画

事業所名 グループホーム せせらぎの里

作成日：令和 5年 11月 8日

市町村受理日：令和 5年 11月 13日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	家族の参加を働きかけるとともに、参加が難しい場合は会議の案内時などに、運営や会議テーマに関する意見を家族に聞き、会議で取り上げることを期待したい。	参加が出来ない場合でも会議に家族の意見がしっかり反映できるよう、しっかり聞き取りを行っていく。	会議の案内を送付する。案内の中には、議題やテーマを分かりやすく記載し興味を持って頂けるようにする。また、参加しやすい雰囲気を作っていく。	6ヶ月
2	23	アセスメントシートの後半部分の枠を活用して、趣味や嗜好に関する情報を定期的に追加・更新することを期待したい。	カンファレンスや、申し送りなどで情報を収集していく。また、家族からの情報を、面会時などで収集していく。	集めた情報をもとに、アセスメントシートに、好みや嗜好など、変化に応じて記録していく。	6ヶ月
3	26	更新時に「サービス担当者会議の記録」を作成することを期待したい。日々の記録は、介護計画の目標を意識した記録の作成を期待したい。	カンファレンス議事録の中に話し合いの中身も記録に残す。記録に対して目標を意識していく。	介護計画にそったサービスが出来るよう、介護計画にあるサービスの実施状況が、一目で分かるようにする。	6ヶ月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。